

大膳職北方の調査

－第332次

はじめに 調査地は、奈良市佐紀町2763-2に所在し、第8次調査により平城宮大膳職と推定された地区の道路を隔てた北側に位置する。個人住宅の新築にともない調査を実施した。従来この地域は、第84次調査以外ではまとまった面積の発掘調査が行われておらず、大膳職北方地域での土地利用のあり方を明らかにする上で、重要なデータを提供するものと期待された。東西16m、南北6mの調査区を設定したが、現在も使用中の排水路が中央にあるため調査区を東西2箇所に分けた。調査面積は合計79.5㎡。調査期間は2001年7月17日から27日である。

基本層序 調査区内の土層は基本的に、表土（地表面の標高74.20m）、床土、バラス混灰褐色粘質土、バラス混茶褐色粘質土、バラス混黄褐色粘質土という順で堆積する。またバラス混黄褐色粘質土上面は調査区西側で傾斜し、バラス混茶褐色粘質土層との間に、明黄褐色粘質土、暗茶灰色粘質土が堆積している。出土した遺物から、バラス混灰褐色粘質土層は中世（13～14世紀）の、それ以下の層は奈良時代の層と判断した。

検出遺構 確認した遺構はバラス混灰褐色粘質土層上面（標高73.70m）で土坑2基、南北小溝2条、バラス混黄褐色粘質土層上面（標高73.60m）で土坑10基、東西小溝4条である。

出土遺物 遺物の出土量は調査区全体を通して少なかったが、バラス混黄褐色粘質土層上面で検出したSK18335からは例外的に多くの瓦が出土したので報告する。

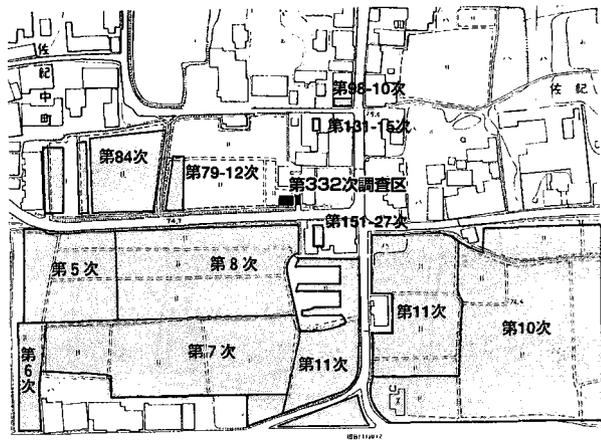


図91 第332次調査区位置図

表16 第332次調査出土瓦磚類集計表

軒丸瓦			軒平瓦		
型式	種	点数	型式	種	点数
6225	C	1	6663	C b	1
6281	?	1	6664	D	5
6311	B a	1		?	4
型式不明		1	6666	A	8
			6685	A	6
				B	1
			型式不明		2
軒丸瓦計		4	軒平瓦計		27

丸瓦	平瓦	磚	道具瓦
重量 10.1kg	31.9kg	0.5kg	鬼瓦
点数 111	205	1	1

SK18335は、長軸130cm、短軸106cmの隅丸方形の土坑で、確認面からの最深部は78cmをはかる。埋土からは、奈良時代の軒丸瓦4点、軒平瓦26点、丸瓦93点（8.48kg）、平瓦137点（27.88kg）、鬼瓦1点が出土した。型式別に見ると、軒丸瓦6225C1点、62811点、6311Ba1点、軒丸瓦型式不明1点、軒平瓦6663Cb1点、66648点（D4点、細分型式不明4点）、6666A8点、66857点（A6点、B1点）、軒平瓦型式不明2点、鬼瓦IA型式1点である。

出土軒瓦はすべて奈良時代前半のものであり、より細かく見た場合では平城宮瓦編年Ⅱ期前半（養老5年～天平初頭）に位置づけられるものが大多数である。出土軒瓦の時期的な一括性が強いこと、そして堆積土に柱やその抜取りの痕跡が認められないことから、本遺構は恭仁京遷都に伴う廃棄土坑であると推定される。（渡辺文彦）

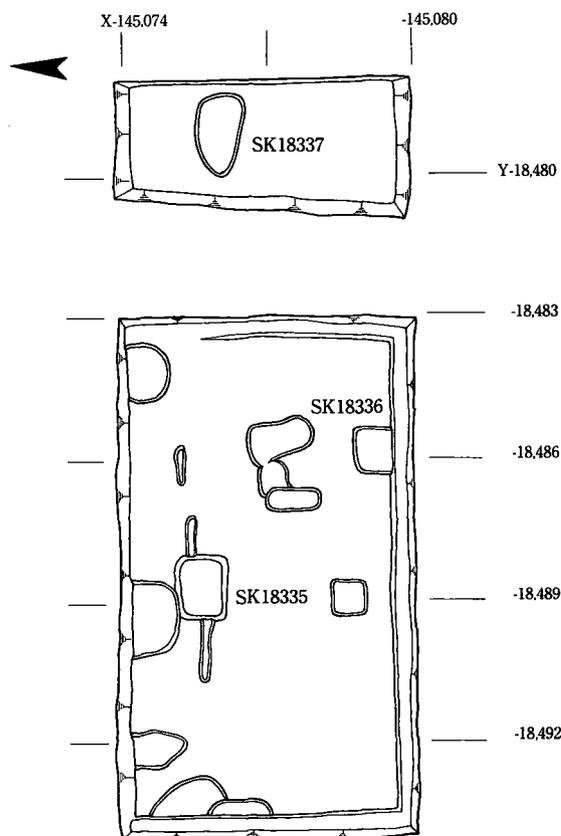


図92 第332次調査遺構平面図 1:160